

(3) 野菜

○ 野菜

【一般事項】

(予防に関する措置)

- ・病害虫の発生を予防するため、作型と品質を考慮しながら、抵抗性品種または抵抗性が高い品種を選択する（台木を含む）。
- ・育苗においては、病害虫に汚染されていない培土や資材を用いる。また、前作で病害虫の発生が認められていない育苗ほ場を選択する。
- ・健全な苗の育成のために、適正な種量や施肥量を遵守し、高温多湿を避ける。
- ・種子処理剤または育苗期もしくは定植時に使用可能な薬剤を施用する。
- ・栽培に適した水はけの良いほ場を選択する。水はけの悪いほ場に作付けする場合は、高畝とする等、排水対策を実施する。
- ・同一ほ場での連作は避け、輪作を行う。間作や輪作作物として、土壌中の病害虫の密度を低下させる作物（対抗植物）を栽培する。
- ・土壌伝染性の病害や害虫（線虫）の拡散防止のため、耕起等の作業を行う際には、病害虫の発生がない、または発生程度の低いほ場から順に行う。
- ・土壌伝染性の病害や害虫（線虫）の発生が懸念されるほ場においては、植付け前に土壌消毒（土壌還元消毒、熱利用土壌消毒等を含む。）を実施する。
- ・健全な種苗を使用する。
- ・土壌診断に基づく適正な施肥、土壌pHの矯正、品種に応じた適正な栽植密度、品種や作型に応じた適正な摘葉・整枝、施設内が高温・多湿にならないための適正なかん水及び換気、病害の発生しにくい時期の作付け等による、適切な栽培管理を行う。
- ・露地栽培では、べた掛け資材、防虫ネット、マルチなどを使用し、害虫の飛来、産卵及び蛹化を防ぐ。
- ・施設栽培では、防虫ネット、忌避灯、UV除去フィルム、粘着シート、マルチ等の使用により、病害虫の施設内への侵入防止または発生抑制を図る。ただし、受粉を目的として蜜蜂等を利用する場合には、UV除去フィルムの使用が蜜蜂等の活動に影響を与えるため注意する。また、防虫ネットの利用に当たっては、対象とする害虫に適した目合いのネットを選択するが、目合いが細かい場合、通気性が悪くなることに留意する。
- ・土壌病害の伝染防止や雑草抑制のため、マルチ等により畝面、通路等の全面を被覆する。利用可能であれば、生分解性マルチ、再生紙マルチ等を使用する。

- ・ほ場への雑草種子の持込み及び雑草を発生源とする害虫の飛込みを抑制するため、ほ場周辺の雑草の管理に努める。
- ・雑草や土壌伝染性の病虫害の拡散防止のため、管理作業に使用するはさみ、手袋、農機具、長靴等をこまめに洗浄及び消毒する。また、発病株に触れた手で健全株に触れない。
- ・細菌病の発生を抑制するため、降雨直後の管理作業を避ける。
- ・大規模産地またはほ場では、地域全体で性フェロモン剤を処理し、交信かく乱による地域全体の害虫の発生密度抑制を図る。

(判断、防除に関する措置)

- ・県の発生予察情報、ほ場の見回り、フェロモントラップの誘殺消長等に基づき、適期防除に努める。
- ・防除の要否、防除時期の判断材料とするため、土着天敵の発生・定着状況を定期的に確認する。
 - ・天敵製剤や微生物農薬、土着天敵を活用する。
 - ・発病葉、発病果、寄生果等は速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。
 - ・ウイルス病、細菌病など防除が困難な病原体による発病株を発見した場合には、早急に抜き取って、ほ場外で適切に処分する。
 - ・作物残さは病虫害の発生及び伝染源となることから、速やかに適切に処分する。
 - ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。
 - ・薬剤散布にあたっては、薬液が葉裏にも十分かかるよう、丁寧に散布する。

| | |
|------|---|
| 野菜共通 | <p>オオタバコガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ（ヤガ類） （予防に関する措置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・育苗期に寒冷紗や不織布で成虫の侵入を防ぐ。 ・施設栽培では、防虫ネット等の設置により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。 ・黄色蛍光灯を設置する。 ・交信かく乱剤を使用する。 ・施設栽培では、栽培終了後に蒸し込み処理を行う。 <p>（判断、防除に関する措置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りやフェロモントラップ等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・中老齢幼虫になると薬剤の防除効果が低下するため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。 ・結球野菜では、結球内部に食入した場合に防除が難しくなることから、結球前の防除を徹底する。 ・微生物農薬を活用する。 ・寄生葉や寄生果は、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |
|------|---|

| | |
|------|---|
| 野菜共通 | <p>コナガ</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・育苗期に寒冷紗や不織布で成虫の侵入を防ぐ。 ・施設栽培では、防虫ネット等の設置により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。 ・交信かく乱剤を使用する。 ・施設栽培では、栽培終了後に蒸し込み処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りやフェロモントラップ等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・中老齢幼虫になると薬剤の防除効果が低下するため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。 ・結球野菜では、結球内部に食入した場合に防除が難しくなることから、結球前の防除を徹底する。 ・微生物農薬を活用する。 ・寄生葉は、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |
|------|---|

| | |
|--------|---|
| 野菜共通 | <p>ツマジロクサヨトウ</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・イネ科、アブラナ科、ウリ科等、広範囲の作物に寄生する。国内では、特に飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで幼虫の寄生が多く認められることから、これらの作物では特に注意する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りやフェロモントラップ等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・中老齢幼虫になると薬剤の防除効果が低下するため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。 ・飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム等に対する農薬の散布にあたっては、新葉の葉しょう基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかり散布する。 ・収穫後に残った残さや土壌中に幼虫や蛹が残存している可能性があるため、収穫後は速やかに複数回の耕うんを行う。 |
| アスパラガス | <p>アザミウマ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |

| | |
|--|---|
| <p>ア ス パ ラ ガ ス</p> | <p>コナジラミ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |
| | <p>褐斑病・斑点病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過繁茂にならないように整枝する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿時は予防的防除を心がける。また初発の小型病斑を見逃さず、初期防除を徹底する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・収穫終了後は残さを搬出し、地表面を火炎放射器等で火炎処理する。 |

| | |
|--|---|
| <p>ア ス パ ラ ガ ス</p> | <p>茎枯病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地表面をマルチ（堆肥、稲わら等）で覆う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤散布は、立茎期の生育初期を重点に行う。 ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・ 伝染源を除去するため、梅雨明け後に発病茎を、夏秋芽収穫終了後に全茎葉を、株元からできるだけ低く刈り取り、ほ場外に持ち出して処分する。 ・ 収穫終了後は残さを搬出し、地表面を火炎放射器等で火炎処理する。 |
| <p>い ち ご</p> | <p>アザミウマ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・ スリムホワイト（防虫ネット）、シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・ ヒラズハナアザミウマに対しては、ハウスへの侵入・増殖期にあたる 10～12 月および春先の 2 月以降、定期的に IGR 剤を散布する。特に、2 番果房開花直前から開花期にあたる 12 月中下旬の防除は効果的である。 ・ 蜜蜂に対し影響のある薬剤は、開花最盛時の散布を控え、蜜蜂を必ず巣箱に回収した後に散布する。 |

| | |
|-----|---|
| いちご | <p>アブラムシ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗を介したほ場への持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を徹底する。 ・ ほ場内や周辺の雑草等繁殖源となるものは除去する。 ・ シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 育苗期においては土着の天敵類(テントウムシ・寄生蜂など)が密度抑制に寄与しているため、土着天敵に影響の小さい選択的薬剤を使用することで、これらの天敵を保護する。 ・ 本ほにおいては天敵製剤や微生物農薬を活用した総合的防除を積極的に実施する。 ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・ 薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。摘葉後に散布すると効果的である。 |
| | <p>コナジラミ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・ シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。 ・ 苗を介したほ場への持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を実施する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼虫密度の低減のため、寄生している下葉を除去し、除去した葉はほ場外へ持ち出し適切に処分する。 ・ ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 天敵製剤や微生物農薬を活用する。 ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・ 薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。摘葉後に散布すると効果的である。 ・ 作物残さを適切に処分する。 |

| | |
|-----|--|
| いちご | <p>ハダニ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・育苗期、本ぽとも、新葉の展開に伴い、不要な下葉を除去する。 ・育苗床での防除の徹底、定植前の苗の二酸化炭素くん蒸等、苗を介したほ場への持込み防止に努める。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・育苗期においては土着の天敵類(ハダニアザミウマ・カブリダニ類など)が密度抑制に寄与しているため、土着天敵に影響の小さい選択的薬剤を使用することで、これらの天敵を保護する。 ・本ぽにおいては天敵製剤を活用した総合的防除を積極的に実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、気門封鎖剤も活用しながら、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性が乏しいため、薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。摘葉後に散布すると効果的である。 |
| | <p>萎黄病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無病の親株用苗を確保し、本田定植苗と別管理する。 ・無病苗を植え付ける。 ・無病ほ場に植え付ける。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生状況に応じて、育苗ほや本ぽの土壌消毒、育苗資材の消毒等を実施する。 ・発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|-----|--|
| いちご | <p>うどんこ病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季の高温期には新葉への病勢進展が抑制されるため、この時期の防除を徹底し、無病苗を植え付ける。 ・育苗後期あるいは定植後ビニル被覆期までに防除を徹底し、本ほで発生させないようにする。 ・ほ場の排水を良好に保つ。 ・密植を避け、不要な下葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・微生物農薬を活用する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・発病葉や発病果、不要な下葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |
|-----|--|

| | |
|-----|--|
| いちご | <p>炭疽病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無病の親株用苗を確保し、本田定植苗と別管理する。 ・風雨による感染を防ぐため、雨よけによる採苗、育苗を行い、採苗は梅雨前に終わらせる。また、親株床ではかん水は点滴チューブなどを用いて株元に行う。 ・窒素肥料の過剰施用を避ける。 ・ほ場の排水を図り、多湿にならないようにする。 ・苗を介したほ場への持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を徹底し、無病苗を植え付ける。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一旦感染すると防除が困難であるため、親株床の心葉の動き始める時期から予防的に防除を行う。特に採苗期、梅雨期、高温期、台風の前、摘葉後は防除を徹底する。 ・発病株および周辺株は速やかに除去、処分し、病原菌の周辺への飛散を防止する。 ・発生状況に応じて、土壌消毒を実施する。 |
|-----|--|

| | |
|------|--|
| いちご | <p>灰色かび病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本ぽでは、多湿にならないように換気に注意するとともに、ほ場の排水対策も心がける。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・微生物農薬を活用する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・葉柄の付け根の発病は見つけにくいいため発生に注意し、薬液が十分かかるよう散布する。 ・発病葉や発病果、不要な下葉や収穫後の果梗枝等は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |
| キヤベツ | <p>アブラムシ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草（特にアブラナ科雑草）の管理を徹底する。 ・育苗床を防虫ネット等により被覆する。 ・有翅虫の飛来を防止するため、シルバーマルチを設置する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・土着の天敵類(テントウムシ・寄生蜂など)が密度抑制に寄与しているため、土着天敵に影響の小さい選択的薬剤を使用することで、これらの天敵を保護する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |

| | |
|----------------------------|---|
| <p>キ ヤ ベ ツ</p> | <p>モンシロチョウ（アオムシ）</p> <p>（予防に関する措置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草（特にアブラナ科雑草）の管理を徹底する。 ・ヘアリーベッチ、大麦等を使用したりビングマルチの活用により、密度抑制を図る。 ・育苗床を防虫ネット等により被覆する。 <p>（判断、防除に関する措置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・老齢幼虫は薬剤に対する感受性が低いため、1～2齢幼虫を対象に防除を実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・作物残さを適切に処分する。 |
| | <p>菌核病</p> <p>（予防に関する措置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は多犯性で、アブラナ科作物以外にレタス、キュウリ、ナス等多くの作物に感染するため、宿主作物の連作を避ける。 ・ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、風通しを良くし、過湿状態にならないようにする。低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培にする。 ・窒素肥料の過剰施用を避ける。 ・田畑輪換や夏季の湛水処理により、菌核を死滅させる。 ・収穫終了後に5 cm以上の反転耕を行い、菌核を埋没させて子のう盤の形成を抑える。 <p>（判断、防除に関する措置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤散布に当たっては、地際部を重点的に散布する。 ・発病葉、発病株は、菌核を作らないうちに早めに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|----------------------------|--|
| <p>キ ヤ ベ ツ</p> | <p>黒腐病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抵抗性品種を使用する。 ・ 種子消毒を行う。 ・ 雨よけ施設で育苗する。 ・ アブラナ科作物の連作を避ける。 ・ ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、風通しを良くし、過湿状態にならないようにする。低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培にする。 ・ 窒素肥料の過剰施用を避ける。 ・ 害虫の食害痕からの本病菌の侵入を防ぐため、害虫の防除も徹底する。 ・ 中耕作業によって生じる傷口は本病菌の侵入口となることから、発生ほ場では中耕作業を控えるか、または株際の中耕作業を避け、植物体をなるべく傷つけないよう留意する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 降雨や低温が予想される場合や強風雨等で傷が付いた場合には、薬剤散布を実施する。 ・ 微生物農薬を活用する。 ・ 発病葉、発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |
|----------------------------|--|

| | |
|------------------|--|
| キ ヤ ベ ツ | <p>軟腐病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌伝染するため、健全な育苗土、本ぽで栽培する。 ・ 発病ほ場で栽培する場合は、土壌消毒を行うか、夏の間耕起して土壌を日光に当て乾燥させる。 ・ ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、風通しを良くし、過湿状態にならないようにする。低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培にする。 ・ 病原菌は多犯性のため、宿主作物の連作を避け、病原菌が感染しにくいイネ科やマメ科作物との輪作を行う。 ・ 汚染した鉢や棚、ベンチも伝染源となるため、健全なものを使用する。再利用する場合は、よく洗浄して乾燥するか消毒した後に使用する。 ・ 害虫の食害痕からの本病菌の侵入を防ぐため、害虫の防除も徹底する。 ・ 中耕作業によって生じる傷口は本病菌の侵入口となることから、発生ほ場では中耕作業を控えるか、または株際の中耕作業を避け、植物体をなるべく傷つけないよう留意する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 発病葉、発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |
| | <p>べと病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アブラナ科作物の連作を避ける。 ・ 根傷みや、肥料切れをしないようにする。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 発病葉、発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|------------------|---|
| き ゆ う り | <p>アザミウマ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持ち込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・施設栽培では、防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。 ・土中での蛹化を防ぐため、マルチを設置する。 ・施設栽培では、栽培終了後に蒸し込み処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・天敵を活用した総合的防除を積極的に実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。整枝・摘葉後に散布すると効果的である。 ・作物残さを適切に処分する。 |
| | <p>アブラムシ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持ち込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・露地栽培ではシルバーマルチの設置を、施設栽培では防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置を行い、ほ場への侵入を防止する。 ・露地栽培では、土着天敵の保護及び活用のため、障壁作物を栽培する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・天敵を活用した総合的防除を積極的に実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。整枝・摘葉後に散布すると効果的である。 |

| | |
|----------------------------|--|
| <p>き ゆ う り</p> | <p>コナジラミ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・施設栽培では、防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。 ・施設栽培では、栽培終了時に蒸込み処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏に十分付着するよう、丁寧に散布する。 ・天敵を活用した総合的防除を積極的に実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。整枝・摘葉後に散布すると効果的である。 ・作物残さを適切に処分する。 |
| | <p>ハダニ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。整枝・摘葉後に散布すると効果的である。 |

| | |
|----------------------------|---|
| <p>き ゆ う り</p> | <p>うどんこ病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抵抗性品種を利用する。 ・ 無病苗を植え付ける。 ・ 乾燥条件下で多発しやすいことから、施設栽培では乾燥を避ける。 ・ 密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・ 株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 微生物農薬を活用する。 ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・ 発病葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |
| | <p>黄化えそ病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本病ウイルスは、ミナミキイロアザミウマによって媒介されるため、アザミウマ類の防除に努める。防除方法についてはアザミウマ類の項を参照。なお、その他のアザミウマ類の媒介については不明である。汁液伝染能力は低く、管理作業等により伝染する可能性は低い。また、経卵伝染、土壌伝染及び種子伝染はしない。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染時期が早いほど減収の被害が大きくなるため、アザミウマ類は発生初期の防除に努める。 ・ 発病株は速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。 |

| | |
|------------------|--|
| き ゆ う り | <p>褐斑病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抵抗性品種を利用する。 ・ 施設栽培では、多湿にならないように換気に注意するとともに、ほ場の排水対策も心がける。 ・ 密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・ 株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 微生物農薬を活用する。 ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・ 発病葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・ 作物残さを適切に処分する。 ・ 支柱や誘引ひもなどに付着した胞子が次作での伝染源となるため、支柱等の農業用資材をこまめに消毒する。 |
| | <p>退緑黄化病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本病ウイルスは、タバココナジラミによって媒介されるため、コナジラミ類の防除に努める。防除方法についてはコナジラミ類の項を参照。なお、経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染及び種子伝染はしない。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染時期が早いほど減収の被害が大きくなるため、コナジラミ類は発生初期の防除に努める。 ・ 発病株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|----------------------------|---|
| <p>き ゆ う り</p> | <p>炭疽病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培では連作を避ける。 ・ほ場の排水対策も心がける。 ・地表面からの本病菌の跳ね返りを防止するため、マルチを設置する。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・被害植物体の組織中で越冬するため、収穫後に被害果、被害葉およびネットや支柱の巻きづる等を取り除き、処分する。 ・支柱や誘引ひもなどに付着した胞子が次作での伝染源となるため、支柱等の農業用資材をこまめに消毒する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨期にまん延するため、降雨の合間に薬剤防除を行う。 ・発病部位は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |
|----------------------------|---|

| | |
|----------------------------|--|
| <p>き ゆ う り</p> | <p>灰色かび病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培では、多湿にならないように換気に注意するとともに、ほ場の排水対策も心がける。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 ・施設栽培では、UV除去フィルムや防滴フィルムを設置する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・微生物農薬を活用する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・茎部の発病は、摘葉や摘心等の整枝部位からの病斑の拡大（枯れ下がり）による場合が多いため、整枝作業等は好天時に行い、作業後は茎葉全体に薬剤が付着するよう薬剤散布を行う。 |
|----------------------------|--|

| | |
|----------------------------|--|
| <p>き ゆ う り</p> | <p>べと病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無病苗を植え付ける。 ・抵抗性品種を使用する。 ・施設栽培では、多湿にならないように換気に注意するとともに、ほ場の排水対策も心がける。 ・多湿を防ぐため、マルチを設置する。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・微生物農薬を活用する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・病原菌は主に葉裏から侵入するため、薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。整枝・摘葉後に散布すると効果的である。 ・発病部位は速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |
| <p>た ま ね ぎ</p> | <p>アザミウマ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持ち込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・土中での蛹化を防ぐため、マルチを設置する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |

| | |
|------|--|
| たまねぎ | <p>白色疫病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗床でも発病するため、定植（移植）の際は無病苗を厳選し、発病株を本ほ場に持たないようにする。 ・ 発生の多いほ場及びその周辺で栽培しない。 ・ ニラ、ワケギ、チューリップ等の宿主作物の近くで栽培しない。 ・ 苗床及びほ場の排水を良好に保つ。 ・ 窒素過多を避ける。 ・ 1年から2年間の輪作を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本病菌は水媒伝染することから、降雨前後の防除を徹底する。 ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 発病葉や発病株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |
| | <p>べと病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去に発病したほ場では育苗しない。 ・ 発生状況に応じて、苗床の土壌消毒を実施する。 ・ 苗床の発病株を適切に処分する。 ・ 越年罹病株を速やかに取り除く。 ・ 前作での発病程度に応じて、連作を避けほ場をローテーションする、または夏季にはほ場の湛水処理を実施する。 ・ 明暗きよにより排水路を確保する等、ほ場内の排水対策を実施する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 薬剤散布に当たっては、地際の葉にもよくかかるよう散布する。 ・ 発病株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・ 作物残さを適切に処分する。 |

| | |
|----------------------|---|
| <p>ト マ ト</p> | <p>アザミウマ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト黄化えそ病ウイルスを媒介する種（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ等5種）があるため、本虫の予防には特に注意する。 ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持ち込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・施設栽培では、防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。ただし、受粉を目的としてマルハナバチを利用する場合には、UV除去フィルムの設置がマルハナバチの活動に影響を与えることに留意する。 ・土中での蛹化を防ぐため、マルチを設置する。 ・施設栽培では、栽培終了後に蒸し込み処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・天敵製剤や微生物農薬を活用する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |
| | <p>アブラムシ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持ち込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・施設栽培では、防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。ただし、受粉を目的としてマルハナバチを利用する場合には、UV除去フィルムの設置がマルハナバチの活動に影響を与えることに留意する。 ・露地栽培では、有翅虫の飛来を防止するため、シルバーマルチを設置する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |

| | |
|----------------------|---|
| <p>ト マ ト</p> | <p>コナジラミ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・施設栽培では、防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。ただし、受粉を目的としてマルハナバチを利用する場合には、UV除去フィルムの設置がマルハナバチの活動に影響を与えることに留意する。 ・施設栽培では、栽培終了後に蒸し込み処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・天敵製剤や微生物農薬、土着天敵を活用する。 ・天敵を活用する際は、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |
| | <p>トマトキバガ (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培では、防虫ネットの設置により、施設内への侵入を防止する。 ・施設栽培では、栽培終了後に蒸し込み処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・除去した被害葉や被害果は、幼虫が潜んでいる可能性があるため、野外に放置せず、速やかに土中に深く埋設するか、ビニル袋等に入れて一定期間密閉し、適切に処分する。 |

| | |
|-------------|--|
| ト マ ト | <p>うどんこ病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無病苗を植え付ける。 ・乾燥条件下で多発しやすいことから、施設栽培では乾燥を避ける。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・微生物農薬を活用する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・発病葉や発病果は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |
| | <p>疫病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪作を行う。 ・多湿条件下で発生しやすいことから、施設栽培では、暖房、送風、換気等により、施設内の湿度を低く保つ。また、ほ場の排水対策も心がける。 ・土の跳ね上がりによる伝染を防止するため、敷わらまたはマルチを設置する。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 ・露地栽培では、ジャガイモほ場の近くでトマトを栽培しない。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。 ・発病葉や発病果は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |

| | |
|-------------|---|
| ト マ ト | <p>黄化葉巻病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本病ウイルスは、タバココナジラミによって媒介されるため、コナジラミ類の防除に努める。防除方法についてはコナジラミ類の項を参照。 ・抵抗性品種を使用する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |
| | <p>黄化病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本病ウイルスは、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミによって媒介されるため、コナジラミ類の防除に努める。防除方法についてはコナジラミ類の項を参照。 |
| | <p>すすかび病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生しやすいことから、施設栽培では、暖房、送風、換気等により、施設内の湿度を低く保つ。また、ほ場の排水対策も心がける。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。 ・発病葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |

| | |
|-------------|--|
| ト マ ト | <p>灰色かび病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生しやすいことから、施設栽培では、暖房、送風、換気等により、施設内の湿度を低く保つ。また、ほ場の排水対策も心がける。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 ・施設栽培においては、防曇・防滴性フィルムを設置する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・微生物農薬を活用する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・花卉を速やかに除去し、果実での発病を防ぐ。 |
| | <p>葉かび病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抵抗性品種を使用する。 ・種子消毒を行う。 ・多湿条件下で発生しやすいことから、施設栽培では、暖房、送風、換気等により、施設内の湿度を低く保つ。また、ほ場の排水対策も心がける。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 ・使用した農業用資材の消毒を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により早期発見に努め、発生初期の防除を徹底する。 ・微生物農薬を活用する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。 ・発病茎葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|----------------|--|
| <p>な す</p> | <p>アザミウマ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・施設栽培では、防虫ネット、シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。 ・土中での蛹化を防ぐため、マルチを設置する。 ・露地栽培では、土着天敵の保護及び活用のため、障壁作物を栽培する。 ・施設栽培では、栽培終了時に蒸込み処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・天敵を活用した総合的防除を積極的に実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。整枝・摘葉後に散布すると効果的である。 ・作物残さを適切に処分する。 |
|----------------|--|

| | |
|----------------|---|
| <p>な す</p> | <p>アブラムシ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・露地栽培ではシルバーマルチの設置を、施設栽培では防虫ネット、シルバーマルチ等の設置を行い、ほ場への侵入を防止する。 ・露地栽培では、土着天敵の保護及び活用のため、障壁作物を栽培する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・土着の天敵類(テントウムシ・寄生蜂など)が密度抑制に寄与しているため、土着天敵に影響の小さい選択的薬剤を使用することで、これらの天敵を保護する。 ・天敵を活用した総合的防除を積極的に実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。 |
|----------------|---|

| | |
|----------------|---|
| <p>な す</p> | <p>コナジラミ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持ち込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・施設栽培では、防虫ネット、シルバーマルチ等の設置により、施設内への侵入を防止する。 ・施設栽培では、栽培終了時に蒸し込み処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・天敵を活用した総合的防除を積極的に実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。整枝・摘葉後に散布すると効果的である。 |
| | <p>チャノホコリダニ (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温乾燥条件が続くと多発しやすく、多発生条件下では十分な防除効果は得られにくい。そのため、栽培管理の中で生長点など寄生しやすい部位を十分に観察し、早期発見、早期防除に努める。 ・短期間で世代を繰り返すため、発生を認めた場合には約5日間隔で2～3回薬剤散布を行う。 ・天敵を活用した総合的防除を積極的に実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・被害茎葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|----------------|---|
| <p>な す</p> | <p>うどんこ病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全苗を植え付ける。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・微生物農薬を活用する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・発病茎葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |
| | <p>すすかび病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生しやすいことから、施設栽培では、暖房、送風、換気等により、施設内の湿度を低く保つ。また、ほ場の排水対策も心がける。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。特に中・下位葉の葉裏に発病しやすいことに留意し、観察する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・発病葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|----------------------------|--|
| <p>な す</p> | <p>灰色かび病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的低温で多湿の場合に発生しやすいことから、施設栽培では、暖房、送風、換気等により施設内の湿度を低く保つ。また、ほ場の排水対策も心がける。 ・ 密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・ 株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 微生物農薬を活用する。 ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・ 花卉を速やかに除去し、果実での発病を防ぐ。 ・ 発病茎葉や発病果は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |
| <p>に ん じ ん</p> | <p>黒葉枯病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無病種子を使用する。 ・ 連作を避ける。 ・ 多湿とならないよう、ほ場の排水を良好に保つ。 ・ 肥料切れにならないよう、適正な施肥管理を行う。 ・ 収穫時に傷つけないようにし、貯蔵する際は無傷のものを選ぶ。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |

| | |
|-----------|--|
| <p>ねぎ</p> | <p>アザミウマ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持ち込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・育苗期間中に、防虫ネット、べたがけ資材等により被覆する。 ・施設栽培では防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置を行い、ほ場への侵入を防止する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・作物残さを適切に処分する。 |
| | <p>アブラムシ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無寄生苗を用い、苗を介したほ場への持ち込みを防ぐ。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・育苗期間中に、防虫ネット、べたがけ資材等により被覆する。 ・施設栽培では防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置により、ほ場への侵入を防止する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |

| | |
|-----------|---|
| <p>ねぎ</p> | <p>ネギハモグリバエ</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培ではシルバーマルチの設置を、施設栽培では、防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置を行い、ほ場への侵入を防止する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回りや粘着シート等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・寄生葉や寄生株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |
| | <p>黒斑病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨よけ栽培を行う。 ・多発ほ場では、連作を避ける。 ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・多湿条件下で発生しやすいことから、ほ場の排水を良好に保ち、風通しを良くするために、密植を避ける。 ・肥料切れや窒素過多にならないよう、適正な施肥管理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・発病葉や発病株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |

| | |
|-----------|--|
| <p>ねぎ</p> | <p>さび病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨よけ栽培を行う。 ・多発ほ場では連作を避ける。 ・多湿条件下で発生しやすいことから、ほ場の排水を良好に保ち、風通しを良くするために、密植を避ける。 ・肥料切れや窒素過多にならないよう、適正な施肥管理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・発病葉や発病株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |
| | <p>べと病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨よけ栽培を行う。 ・多発ほ場では、連作を避ける。 ・健全苗を用い、本病未発生ほ場で栽培を行う。 ・ほ場の排水を良好に保つ。 ・風通しを良好に保つ。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・発病葉や発病株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |

| | |
|------------------|--|
| は く さ い | <p>アブラムシ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草（特にアブラナ科雑草）の管理を徹底する。 ・育苗床を防虫ネット等により被覆する。 ・有翅虫の飛来を防止するため、シルバーマルチを設置する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・土着の天敵類(テントウムシ・寄生蜂など)が密度抑制に寄与しているため、土着天敵に影響の小さい選択的薬剤を使用することで、これらの天敵を保護する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |
| | <p>モンシロチョウ（アオムシ） (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草（特にアブラナ科雑草）の管理を徹底する。 ・ヘアリーベッチ、大麦等を使用したリビングマルチの活用により、密度抑制を図る。 ・育苗床を防虫ネット等により被覆する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・老齢幼虫は薬剤に対する感受性が低いため、1～2齢幼虫を対象に防除を実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・作物残さを適切に処分する。 |

| | |
|------------------|---|
| は く さ い | <p>菌核病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は多犯性で、アブラナ科作物以外にレタス、キュウリ、ナス等多くの作物に感染するため、宿主作物の連作を避ける。 ・ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、風通しを良くし、過湿状態にならないようにする。低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培にする。 ・窒素肥料の過剰施用を避ける。 ・田畑輪換や夏季の湛水処理により、菌核を死滅させる。 ・収穫終了後に5 cm以上の反転耕を行い、菌核を埋没させて子のう盤の形成を抑える。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤散布に当たっては、地際部を重点的に散布する。 ・発病葉、発病株は、菌核を作らないうちに早めに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |
|------------------|---|

| | |
|------|--|
| はくさい | <p>黒腐病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抵抗性品種を使用する。 ・ 種子消毒を行う。 ・ 雨よけ施設で育苗する。 ・ アブラナ科作物の連作を避ける。 ・ ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、風通しを良くし、過湿状態にならないようにする。低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培にする。 ・ 窒素肥料の過剰施用を避ける。 ・ 害虫の食害痕からの本病菌の侵入を防ぐため、害虫の防除も徹底する。 ・ 中耕作業によって生じる傷口は本病菌の侵入口となることから、発生ほ場では中耕作業を控えるか、または株際の中耕作業を避け、植物体をなるべく傷つけないよう留意する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 降雨や低温が予想される場合や強風雨等で傷が付いた場合には、薬剤散布を実施する。 ・ 微生物農薬を活用する。 ・ 発病葉、発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |
|------|--|

| | |
|------|--|
| はくさい | <p>軟腐病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌伝染するため、健全な育苗土、本ぽで栽培する。 ・ 発病ほ場で栽培する場合は、土壌消毒を行うか、夏の間耕起して土壌を日光に当て乾燥させる。 ・ ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、風通しを良くし、過湿状態にならないようにする。低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培にする。 ・ 病原菌は多犯性のため、宿主作物の連作を避け、病原菌が感染しにくいイネ科やマメ科作物との輪作を行う。 ・ 汚染した鉢や棚、ベンチも伝染源となるため、健全なものを使用する。再利用する場合は、よく洗浄して乾燥するか消毒した後に使用する。 ・ 害虫の食害痕からの本病菌の侵入を防ぐため、害虫の防除も徹底する。 ・ 中耕作業によって生じる傷口は本病菌の侵入口となることから、発生ほ場では中耕作業を控えるか、または株際の中耕作業を避け、植物体をなるべく傷つけないよう留意する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 発病葉、発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |
| | <p>べと病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アブラナ科作物の連作を避ける。 ・ 根傷みや、肥料切れをしないようにする。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 発病葉、発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|-------------|---|
| <p>ピーマン</p> | <p>アブラムシ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・露地栽培ではシルバーマルチの設置を、施設栽培では、防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置を行い、ほ場への侵入を防止する。 ・露地栽培では、土着天敵の保護及び活用のため、障壁作物を栽培する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・天敵製剤や微生物農薬、土着天敵を活用する。 |
| | <p>うどんこ病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抵抗性品種を使用する。 ・無病苗を植え付ける。 ・ほ場の排水対策を心がける。 ・密植を避け、不要な枝葉は除去、処分し、通風、採光をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・微生物農薬を活用する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・発病葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|----------------------------|--|
| ブ ロ ッ コ リ ー | <p>アブラムシ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草（特にアブラナ科雑草）の管理を徹底する。 ・育苗床を防虫ネット等により被覆する。 ・有翅虫の飛来を防止するため、シルバーマルチを設置する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・土着の天敵類(テントウムシ・寄生蜂など)が密度抑制に寄与しているため、土着天敵に影響の小さい選択的薬剤を使用することで、これらの天敵を保護する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |
| | <p>モンシロチョウ（アオムシ） (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草（特にアブラナ科雑草）の管理を徹底する。 ・ヘアリーベッチ、大麦等を使用したリビングマルチの活用により、密度抑制を図る。 ・育苗床を防虫ネット等により被覆する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・老齢幼虫は薬剤に対する感受性が低いため、1～2齢幼虫を対象に防除を実施する。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・作物残さを適切に処分する。 |

| | |
|--|---|
| <p>ブ ロ ッ コ リ ー</p> | <p>菌核病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は多犯性で、アブラナ科作物以外にレタス、キュウリ、ナス等多くの作物に感染するため、宿主作物の連作を避ける。 ・ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、風通しを良くし、過湿状態にならないようにする。低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培にする。 ・窒素肥料の過剰施用を避ける。 ・田畑輪換や夏季の湛水処理により、菌核を死滅させる。 ・収穫終了後に5 cm以上の反転耕を行い、菌核を埋没させて子のう盤の形成を抑える。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤散布に当たっては、地際部を重点的に散布する。 ・発病葉、発病株は、菌核を作らないうちに早めに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |
|--|---|

| | |
|--|--|
| <p>ブ ロ ッ コ リ ー</p> | <p>黒腐病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抵抗性品種を使用する。 ・ 種子消毒を行う。 ・ 雨よけ施設で育苗する。 ・ アブラナ科作物の連作を避ける。 ・ ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、風通しを良くし、過湿状態にならないようにする。低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培にする。 ・ 窒素肥料の過剰施用を避ける。 ・ 害虫の食害痕からの本病菌の侵入を防ぐため、害虫の防除も徹底する。 ・ 中耕作業によって生じる傷口は本病菌の侵入口となることから、発生ほ場では中耕作業を控えるか、または株際の中耕作業を避け、植物体をなるべく傷つけないよう留意する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 降雨や低温が予想される場合や強風雨等で傷が付いた場合には、薬剤散布を実施する。 ・ 微生物農薬を活用する。 ・ 発病葉、発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |
|--|--|

| | |
|--|--|
| <p>ブ ロ ッ コ リ ー</p> | <p>軟腐病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌伝染するため、健全な育苗土、本ぽで栽培する。 ・ 発病ほ場で栽培する場合は、土壌消毒を行うか、夏の間耕起して土壌を日光に当て乾燥させる。 ・ ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、風通しを良くし、過湿状態にならないようにする。低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培にする。 ・ 病原菌は多犯性のため、宿主作物の連作を避け、病原菌が感染しにくいイネ科やマメ科作物との輪作を行う。 ・ 汚染した鉢や棚、ベンチも伝染源となるため、健全なものを使用する。再利用する場合は、よく洗浄して乾燥するか消毒した後に使用する。 ・ 害虫の食害痕からの本病菌の侵入を防ぐため、害虫の防除も徹底する。 ・ 中耕作業によって生じる傷口は本病菌の侵入口となることから、発生ほ場では中耕作業を控えるか、または株際の中耕作業を避け、植物体をなるべく傷つけないよう留意する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 発病葉、発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |
| | <p>べと病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アブラナ科作物の連作を避ける。 ・ 根傷みや、肥料切れをしないようにする。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 発病葉、発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|--|--|
| <p>ほ う れ ん そ う</p> | <p>アブラムシ類 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・露地栽培では、は種時から幼苗期頃まで、不織布をべたがけする。 ・露地栽培ではシルバーマルチの設置を、施設栽培では、防虫ネット、UV除去フィルム、シルバーマルチ等の設置を行い、ほ場への侵入を防止する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |
| | <p>べと病 (予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抵抗性品種を栽培する。ただし、本病菌には寄生性の異なる系統（レース）が存在するため、注意する。 ・施設栽培では、多湿にならないように換気に注意するとともに、ほ場の排水対策も心がける。 ・密植を避け、不要な葉は除去、処分し、通風をよくする。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 ・発生時期に当たる3～5月および10～12月に数回薬剤防除を行う。治療効果の高い薬剤が少ないため、予防的防除に努める。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。 ・発病株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |

| | |
|-------------|--|
| レ タ ス | <p>アブラムシ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・有翅虫の飛来を防止するため、シルバーマルチを設置する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |
| | <p>菌核病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は多犯性のため、宿主作物の連作を避ける。 ・苗を介したほ場への持ち込みを防ぐため、苗床での薬剤散布を徹底する。 ・トンネル栽培では、多湿にならないよう換気に留意する。 ・子のう胞子の飛散を抑制するため、マルチを設置する。 ・夏季にはほ場の湛水処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・発病株は菌核が形成される前に速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |

| | |
|-------------|---|
| レ タ ス | <p>軟腐病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌伝染するため、健全な育苗土、本ぽで栽培する。 ・ 発病ほ場で栽培する場合は、土壌消毒を行うか、夏の間耕起して土壌を日光に当て乾燥させる。 ・ 病原菌は多犯性のため、宿主作物の連作を避け、病原菌が感染しにくいイネ科やマメ科作物との輪作を行う。 ・ 使用した農業資材の消毒を行う。 ・ 多湿条件で発生しやすいことから、ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、湿度低下を図る。トンネル栽培では換気に努め、低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培を行う。 ・ 湿度低下を図り、土の跳ね上がりによる伝染を防止するため、マルチを設置する。 ・ はさみ等の作業用具はこまめに熱湯で滅菌するか消毒して使用する。 ・ 発病株に触れた手で健全株に触れないようにする。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発病株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 |
| | <p>灰色かび病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多湿条件下で発生しやすいことから、ほ場の排水対策を心がけ、密植を避け、マルチを設置するなどし、湿度低下を図る。トンネル栽培では換気に努め、低湿地やくぼ地では栽培を避けるか高畝栽培を行う。 ・ 傷口が早く乾くよう、収穫作業は晴天が続く時に行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・ 発病葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・ 作物残さを適切に処分する。 |

○ いも類

【一般事項】

(予防に関する措置)

- ・トラクター等の農機具の清掃を徹底する。
- ・収穫残りいも・茎葉など残さの適正処分、排水対策などの環境整備を実施し、菌密度の低下を図る。
- ・採種ほ産の優良種苗による種苗更新の実施を行う。

(判断、防除に関する措置)

- ・ほ場の見回り、フェロモントラップの誘殺消長等に基づき、適期防除に努める。
- ・被害株または発病株を発見した場合には、速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。

| | |
|-------|---|
| さつまいも | <p>ナカジロシタバ</p> <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 ・幼虫の齢期が進むと摂食量が多くなり、また、薬剤の効果が現れにくくなることから、ほ場の見回り等により発生状況を把握し、若齢から中齢期までに薬剤散布等を行う。 ・葉裏に幼虫が生息していることから、薬剤散布に当たっては、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布する。 |
| | <p>基腐病</p> <p>【未発生地域の場合】</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無病の種いも及び苗の使用を徹底する。 ・育苗を実施する場合には、苗床の土壤消毒を実施する。 ・採苗を実施する際には、地際部から5 cm以上切り上げて採苗し、採苗当日に苗消毒を実施する。 ・農機具、長靴等を洗浄し、本病菌の侵入防止に努める。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により早期発見に努め、発病株を確認した場合には、速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出すとともに、周辺の株に薬剤散布を実施する。 <p>【発生地域の場合】</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抵抗性品種を使用する。 ・本病が多発したほ場では、2年以上さつまいも栽培を控え、輪作等を実施するか、さつまいも以外の品目への転作を検討する。 ・無病の種いも及び苗の使用を徹底する。 ・本病の未発生ほ場から、種いもを採取する。育苗を実施する場合には、苗床の土壤消毒を実施する。 ・苗床に本病の発生が確認された場合には、発病株を速やかに施設外に持ち出し、適切に処分する。 |

| | |
|----------------------------------|---|
| <p>さ つ ま い も</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・採苗を実施する際には、地際部から5 cm以上切り上げて採苗し、採苗当日に苗消毒を実施する。 ・発生ほ場で使用した農業用資材または農機具を別のほ場で使う場合には、消毒や洗浄を十分に実施する。 ・植え付け前には、ほ場の排水対策を徹底する。 ・早植え及び早掘りにより、被害が軽減できる傾向があることから、作型の変更を検討する。 ・作物残さ等が感染源となるため、収穫後は速やかに取り除くとともに、耕起等により、ほ場内に残った作物残さの分解促進を図る。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期の防除を徹底する。 ・薬剤散布に当たっては、葉よりも株元や茎に十分に薬液が付着するよう散布する。 ・発病株を確認した場合には、速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出すとともに、周辺の株に薬剤散布を実施する。 ・発生状況に応じて、土壌消毒を実施する。 |
| <p>さ と い も</p> | <p>アブラムシ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・有翅虫の飛来を防止するため、シルバーマルチを設置する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |

| | |
|-----------------------|---|
| ば れ い し よ | <p>アブラムシ類</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内や周辺の雑草等増殖源となるものは除去する。 ・有翅虫の飛来を防止するため、シルバーマルチを設置する。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス病を媒介することから、ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いたローテーション散布を実施する。 |
| | <p>疫病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抵抗性品種を使用する。 ・無病の種いもを使用する。 ・ほ場の排水を良好に保つ。 ・株の過繁茂や草勢の低下を防止するため、適切な施肥を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の見回り等により発生状況を把握し、初期防除に努める。 ・発病株は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・作物残さを適切に処分する。 |
| | <p>そうか病</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常発地では耐病性品種を使用する。 ・無病の種いもを使用する。 ・土壌pHを4.5～4.8に維持する。 ・石灰質、りん酸質および有機資材を過剰に施用しない。 ・連作を避ける。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌消毒を行う。 |